

## 2歳児のままごと遊びから

園長 山 中 文

先月は、年長さんが集団で取り組んでいたトイレの制作とそれを使った遊びの様子をご紹介しました。今回は、ぐっとかわって、2歳児の一人遊びを見てみましょう。

この写真は、家庭で一人遊びをしているところです。足を少し捻挫して園をお休みしているので、お家で静かにままごと遊びをしています。少しさびしい気持ちでいる中、なぜか癒してくれたのは、指の形をしたぬいぐるみです。「指さん」と名付けていたようです。園をお休みしていた間、「指さん」を片時も離さなかったと聞いています。この写真は、「指さん」をお客様にして、何かお料理をつくってあげようとしているところです。面白いのは、まず、ていねいに座って「指さん」に相對していること。「何食べますか」とか「どうぞ」といったやりとりが交わされていたそうです。律儀な職人さんのようですね。また、「指さん」第一なのですが、そのあとに、くま、パンダ、うさぎ、犬のぬいぐるみのお客さまがちゃんと控えているところです。みなきちんと並んで、食事の順番を待っています。バスケットの中にはキャラクターのトラくんもいますね。園に行けない分、たくさんのお気に入りといっしょにいたかったのかもしれない。

ままごと遊びは、それまでに見たり聞いたりしていることを、目の前にない状態から真似で再現しようとするから、それによって、いろいろなルールや表現を学んだり、ことばなどによるコミュニケーションが増えたりする機会になります。幼児期の発達にかかわる重要な活動であると言われているものですね。

でも、この様子を見てみると、それだけではなく、ままごと遊びをすることによって、気持ちも癒されているのではと思ってしまうかもしれません。否定も肯定もしないぬいぐるみたちに話しかけることによって、受容されたように感じているのではないのでしょうか。

お家でのままごと遊びをよく見ていたら、そういう場面が見当たらないかと思えますよ。



\*写真掲載は、ご両親の承諾を得ています。